

[福岡市令和8年度予算]

福岡市の令和8年度の一般会計予算は約1兆1,318億円であり、前年度より1.7%増となっています。これは5年連続で過去最高となる見通しです。元気で住みやすい街といわれる福岡市は「都市の成長と生活の質の向上の好循環」を持続的なものにするため、もっと住み続けたいなるまちを目指した予算となっています。

1) 次世代をはぐくみ、誰もが元気に暮らすまちのために

- ◆子育て世代の市内住替えや三世帯同居・近居を支援（4億3,000万円）
…住宅取得費や家賃、引越し費用等を助成します
- ◆乳幼児家庭の一時的な預かりの拡充（2億4,753万円）
…ベビーシッターや一時預かりの受け皿を拡大します
- ◆重度障がい者の家族へのレスパイト支援（1億9,695万円）
…医療的ケア児の家族の負担軽減を図ります
- ◆福岡100プラザのリニューアルオープン（4億2,912万円）
…各区の高齢者拠点施設の一層の充実を図ります。早寿園は「福岡100プラザ早良」としてリニューアルします

2) 都市インフラと歴史・文化を感じるまちのために

- ◆地下鉄七隈線車両増備及び6両編成化検討（30億2,059万円）※下記参照
- ◆生活交通の運行エリア拡大（1億8,016万円）
…公共交通不便地等での生活交通確保に向けた取り組みを拡大します
- ◆博物館のリニューアル推進（13億8,699万円）
- ◆プラスチック分別回収の開始（4億5,695万円）

3) 防災など主要事業のために

- ◆水道・下水道の安全・災害対策（366億1,078万円）
- ◆道路陥没対策の強化（4億7,321万円）

福岡市営地下鉄七隈線 混雑緩和と利便性向上へ調査開始

◎混雑緩和案 車両の6両編成化・増結への調査進む

2023年3月に、天神南駅～博多駅の路線が延長されたことにより利用客が集中し、乗車率も130%と高くなっています。そこで、混雑緩和のために4両編成から6両編成へと車両の増結が検討されています。

◎延伸案 2区間で調査中

- ①橋本～姪浜
- ②博多～福岡空港国際線ターミナル

これまでバスを利用していた利用客が地下鉄利用となり、利便性の向上と混雑緩和が期待されます。多方面から調査が進められます。

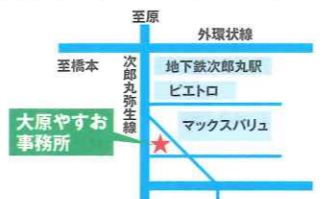


七隈線延伸についての私見 九州大学が西に移転しましたが、公共交通の利便性が課題となっています。解消策の一つとして鉄軌道の整備が考えられます。それには七隈線の橋本駅から九大学研都市駅を経由して九州大学まで延伸すべきではないかと考えます。

福岡市議会議員 **大原やすお事務所**

地域の方々と一緒に取り組んでいます。

福岡市早良区次郎丸4丁目9-37
(サンラク次郎丸)
TEL092-863-9567
FAX092-863-9568
mail info@oohara-yasuo.jp



※絆通信印刷費用の一部は政務活動費から出させて頂いております。



Kizuna Tsushin

大原やすお

福岡市議会議員《早良区》

ごあいさつ

福岡市の令和8年度一般会計予算は約1兆1,318億円であり、前年度より約190億円増となっています。この一般会計の収入のうち、市民の皆さんにご負担いただく市税収入は前年度比5.7%増の4,263億円と見込んでおり、これは5年連続で過去最高を更新する見通しです。税収の伸び率が全国20の政令都市でトップであることから、国内でも元気な都市として評価を受けています。

市税は大きく分けて個人市民税、法人市民税、そして固定資産税の3つに分かれます。本市の税収が伸びた要因の一つには地価の上昇による固定資産税の増収があげられます。それは都心部での再開発である天神ビッグバンや博多コネクティッドによる地価の高騰が大きいと考えられますが、それに伴い住宅地の地価が上昇したことも大きな要因です。市民からは宅地の固定資産税が上がったことに不満と不安の声が聞かれます。

私は、現在市税のわずか10%である法人税を伸ばすことが市民の重税感を軽減することに繋がると考えています。そのためには中央の資本に頼ることなく、地場の企業の活性化と成長が不可欠です。そこで国が目指している日本成長戦略、「強い経済」実現の一つとしての“地方に大規模な投資を行う方針”を導入して地場企業の成長環境を整え、経済の活性化を図ることに重点を置くべきだと考えています。

これからも豊かさを実感できる住みやすい環境づくりに邁進してまいります。引き続き、皆さま方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



市議会議員 大原 やすお

早良区役所周辺のまちづくり

区内の国・県・市の自民党議員で「早良区役所周辺のまちづくり」の研究会を立ち上げ、関係諸団体と協議を重ねてまいりました。報告書をまとめ市長に提出しておりましたところ、令和8年度から調査が始まることになりました。

区役所をはじめ、各公共施設について市民の利便性を図りながら「親しまれるまち」になるように努めてまいります。



学校体育館の空調整備進行中 2027（令和9）年度までに全小中学校に導入

体育館での熱中症を防ぎ教育環境の向上や、災害時の避難所としての機能改善を図るために、市立学校体育館へのエアコン設置を令和7年度から進めています。令和9年度までに全227校に設置完了の予定です。



大原やすおの議会活動報告

常任委員会では総務財政委員会に所属しています。総務企画局、財政局、市民局などが担当部局です。議員としてだけでなく、一市民として、一地域住民としての目を市政に向けて奮闘しております。

2025(令和7)年 6月議会

違法建築や違法開発に対する本市の対応について

質問
骨子

このところ、災害が頻発するなかで違法な建築や開発によって更に被害が大きくなっており、早急な防止策が求められています。

しかしながら、違法建築の是正指導を担う自治体にも実態の全容把握は難しく、違法状態が長期間に及ぶ建造物もあるとみられます。防災面からも違法な建築や開発をいかに無くしていくかは大きな課題だと思います。本市として違法防止策や違法物件に対し、これからどのような指導や是正を行っていくのかを問いました。



回答
骨子

建築基準法や都市計画法開発法は市民の生命や健康、財産を守ると共に都市の健全な発展と公の福祉の増進に寄与する重要な法律だと認識しています。

違法物件に関しては是正指導を行い、自主的な是正を促しているが、指導に従わず、保安上や衛生上著しく公益に反する悪質なものについては、必要に応じて、工事停止、除去、使用制限など建築基準法9条に基づく命令を行うこととしています。

今後とも、市民や関係業界に対し、法令遵守の周知や啓発に努めるとともに、関係局と連携を図りながら、違法建築物の防止と是正の指導をしっかりと取り組んでまいります。

2025(令和7)年 6月議会

ユニバーサル都市・ふくおかにおける行政の片仮名語表記について

質問
骨子

現代は片仮名やアルファベットの言葉がマスコミ業界だけではなくあらゆるところに飛び交っていますが、誰もが正しく使用理解されているのでしょうか。コロナ禍においては「オーバーシュート」など次々とカタカナ語で感染防止策が報じられました。特に注意喚起を必要とする高齢者からは、理解どころか混乱と戸惑いの声があがっていました。

近年、本市の行政側からも片仮名語が多く発信されるようになりました。特に高齢者の情報源「市政だより」にも難解な片仮名語がたびたび使用されています。また本庁の部署名には「SmartEAST基盤計画課」など理解できないアルファベットが使用されたりしています。「ユニバーサル都市福岡」(みんなが、みんなに、やさしい都市福岡)を標榜するのであれば、みんなが理解できる優しい言葉で情報発信や説明をすべきではないかと問いました。



回答
骨子

必要に応じて片仮名やアルファベットを活用することで、「天神ビッグバン」や「SDGs」など、市民への定着が進んでいる言葉もあるものと認識しており、今後とも、ユニバーサルデザインの理念を踏まえつつ、市民の皆様にとって分かりやすく、効果的な言葉の選定や情報発信に取り組んでまいります。

より安全に、住みやすいまちにするための
施策実現に向けて動き出しています。



福岡市議会 議場 ▶

念願の
多目的
グラウンド

早良運動公園(仮称) 整備進行中

各区に整備されている多目的グラウンドが早良区にはありません。そのため、これまで規模の大きなスポーツ行事開催時は、他区や民間のグラウンドを使用してきました。かねてから、区民や各団体から早良区内に多目的グラウンドの設置の要望があがっていましたが、四箇田校区の皆様や地権者のご理解・ご協力によって、ようやく運動公園の整備が進みだしました。環境に配慮した利用しやすい運動公園が実現するように、これからも努めてまいります。

早良運動公園(仮称)

- 位置
早良区四箇四丁目内
- 面積 約4.5ha
- 設備
・球技等多目的グラウンド
・緑化公園
・遊具広場
・駐車場



完成イメージ図



位置図

豪雨による住宅街の浸水防止解決策 水路井堰のゲートを遠隔操作で開閉

近年、豪雨によって住宅街の浸水被害が増えつつあります。住宅街には以前、豪雨のたびに調整池の役目を果たす田や畑が広がっていました。ところが田畑が無くなったことで雨水は一気に水路に流れ込み、許容量を超えた雨水が溢れて住宅街に流れ出し、浸水するようになりました。

水路は河川や複数の水路と繋がっていることから、水路への流量を遠隔で確認し、複数の井堰のゲートの開閉を遠隔で操作することで、安全で的確な水量の調整を行うことができます。

この住宅街の浸水を防ぐシステム開発の試みが、地域・福岡大学・行政が一体となって検討されています。



ゲートの開閉を遠隔で

油山川上流域に砂防ダム建設中

- 1期：砂防堰堤(ダム) 2基 完成
- 2期：砂防堰堤(ダム) 3基 協議中

砂防ダムは、集中豪雨で山肌や谷川の土砂が一気に流れ出すのを防止し、水害を防止することを目的としたものです。地元地域の皆様のご理解とご協力により、現在、野芥校区などの下流域の水害防止対策として、油山川上流域(西油山)に県の事業で砂防ダムの建設が進行中です。

大田満県議と共に、安全に早期完成を目指し努力しています。



砂防ダム